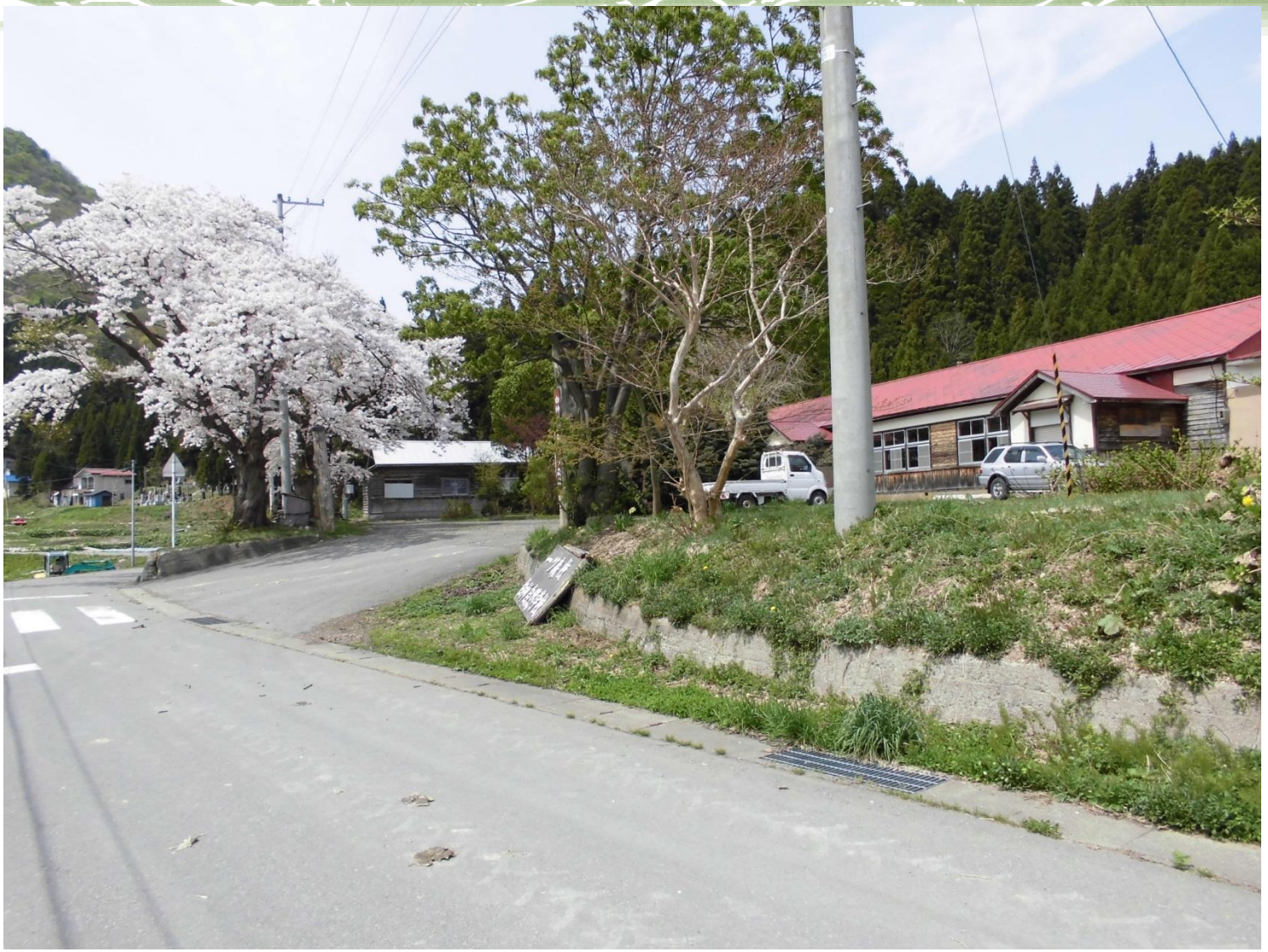
女性が活躍する白神自然学校ーツ森校

ー地域素材材と場所を活かすー



白神山地世界遺産登録地域
世界遺産白神山地核心地域
13万haの白神山地地域
白神
自然
学校
あじがさわ
五能線
ふかうら
鰺ヶ沢町
津軽岩木
スカイライン
▲岩木山
1625
岩木町
むついわさき
岩崎村
白神ライン
じゅうにこ
しらかみだけ
とざんぐち
五能線
白神岳
1232▲
相馬村
西目屋村
真瀬岳
988
三ツ森▲
949
田代岳▲
1178
▲駒ヶ岳
1158
いわだて
八森町
田代町
はちもり
藤里町
日本海
さわめ
峰浜村
鷹巣町
能代市
ふたつい
奥羽本線
のしろ
たかの

クロモジ茶とエッセンシャルオイル

白神手づくりクッキー

西川真知子さん
日本ナチュラルセンター代表がプロデュースしている。
「自然の癒し」を追及し、東京銀座で・ヨガ・コンサルを通して、多くの方々に自然に戻る活動を展開している。

自然学校

自然学校

農家レストランしらかみ

【白神自然学校のＩＴを活用したグリーンツーリズム雇用推進事業】

シニア・女性の労働力

地元の講師
里山の実習体験の講師
（山菜料理や薪割り炭焼きなどを教える）

地元農家の婦人部
産直・ネット販売等の準備
（地元の山菜・野菜の加工づくり・農家レストラン）

森林作業等に従事
植樹地の手入れ・ブナの苗床作業・間伐材の利用

講師・作業従事 ⇒

⇐ 報　酬

自然学校一ツ森校

体験授業

- 白神山地における林業体験・環境学習を白神自然学校遊々の森で体験
- 液晶ビジョンを使った白神学習コーナー
- 自然体験学習
  - 里山の実習体験
  - エコロジー体験を実施
    クロクマの滝や一ツ森のブナ林赤石川、鯵ヶ沢
    「山・川・海」体験
- 民話資料ｺｰﾅｰ
  白神山地の里山の昔から伝えられた語りべを資料としてまとめる。

映写利用

半日授業

１日授業

・鯵ヶ沢白神グリーンツーリズム推進協議会
・赤石川こども水辺自然体験活動推進協議会
との連携事業

＜データベース管理＞
- 名簿管理
- 受発注管理
- 授業ｽｹｼﾞｭｰﾙ管理
- 勤退勤管理ｼｽﾃﾑ

会費（年間5,000円）
- 「しらかみ通信」
- 「産直」

春・秋コースどちらか付き
（非会員は3,000円）

「自然学校」ホームページ（Webサイト）：広告効果、
しらかみ通信発行、会員・各種申込フォームなど

⇐ デジカメ自然撮影
HP更新に利用

入場・体験・授業申込み ⇒

研修申込み ⇒

「しらかみ通信」
・産地直送 ⇒

入場者・学校・企業・団体
小・中・高・大・大人の受け入れ

資格申込み
（インタープリター）
CONリーダー資格

会　　員　・　非　会　員
会員には白神情報を提供する

「なぜ、どうして」を自問自答する

・農林漁業が儲からなくて苦しい
・過疎化していくのが止められない
・観光組織がうまく機能していない
・白神山地があり、組織もあり。PRもしている。
　なのに観光客が来ない。定住も進まない

・目先に走り、将来ビジョンを忘れていないか。
・情報は、すみずみまで共有されていない。
・行政の考え方と住民の生活や考え方が乖離している。
・できない！　無理だ！　と思ったり、言ったりしている。
・地域づくりやまちづくりには、どれほどすぐれた地域でも賞味期限がある。長く延ばす努力、新しい地域づくりをしようとする努力をしているか。

地域活性化を建築にたとえると

元気な地域の3つの要素

地域が元気になる「何か」を始める時、少なくとも3つの要素が不可欠である

誰に(誰の)ために、どのように、何をしているのかがしっかりしている

この地区で暮らしたい、暮らしてよかった、暮らし続けたい地域になるためにツーリズムがある

①今の自分の生活は、家族は、地域はどうなっているか。10年後、20年後、50年後はどうなるか
地域にある資源(産業・自然・歴史文化・人)は何か
②将来ビジョンを創る
　100年後を夢みよう
(100歳生きたら活性化する。・・・・・見に行きたい。何を食べてんだろう・・・・定住するし、農産物が売れる。
目の前の各論は反対派がいても、100年後の総論には反対派はいない。
③ただちにやること、しないといけないことは何か?
　よ-いドン!　の一斉スタートで、優先順位を自分たちでつけましょう
④決めた事をみんなで共有しましょう。みんなが知っているということが大事である。

この事業成果は、住民が笑顔で、幸せを表現できていること、子どもや孫が幸せに暮らしていける、地域の暮らしを提案するツーリズム・自然学校

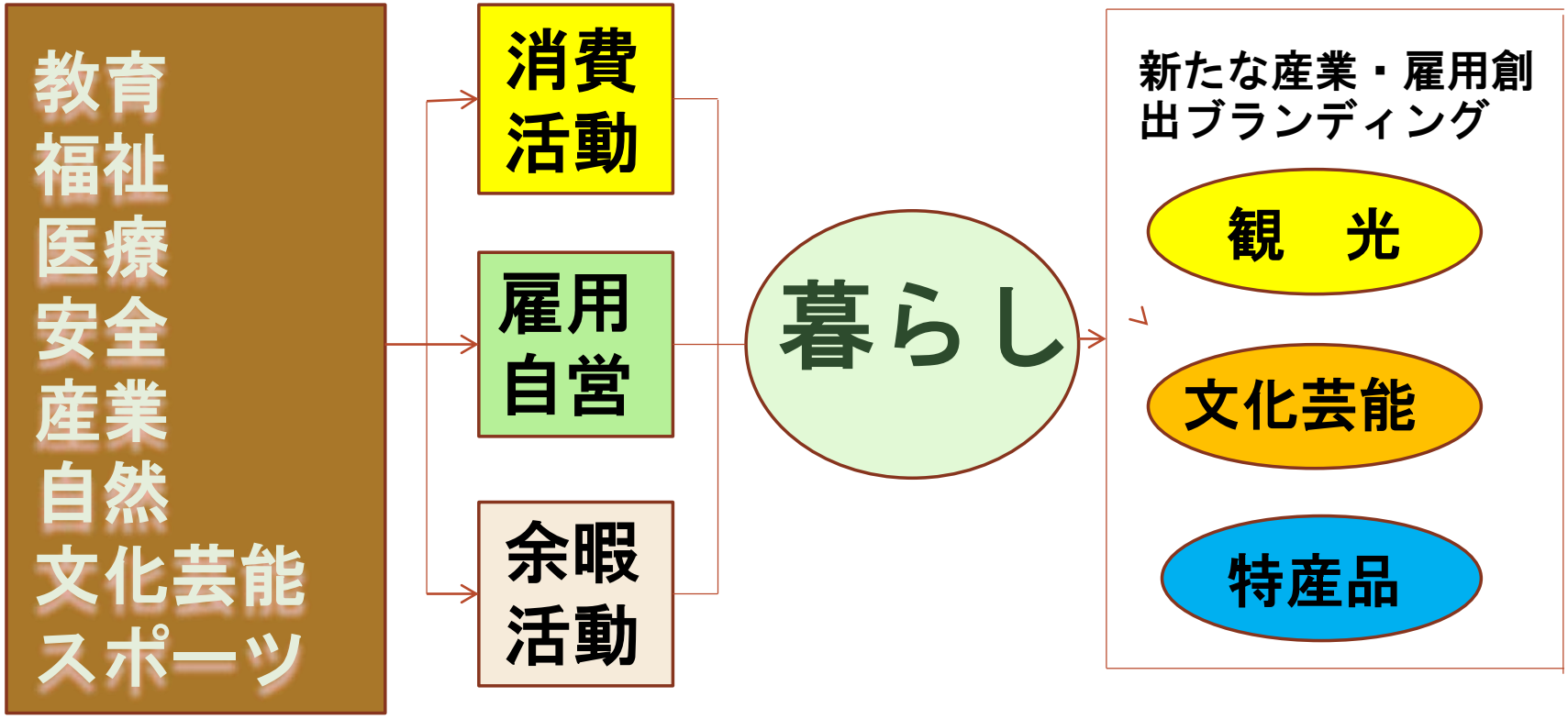
地域の暮らし方を提案するツーリズム

★ツーリズムは体験の提供から暮らし方の提案へ移行した
★地域の住民の暮らしには、その地域ならではの歴史や風習が根付き、独自の食材・調理法・マナーがある
★文化が違えば同じ食材でも調理法が変わる
★気候が違えば作る作物も変わる

■ツーリストは自分の日常でない景観や言葉、食べ物を求めてやってくる
■ゆえに大型観光施設が皆無でも、素朴な民泊や街並み、違う言葉に異国を感じ、素朴な食べ物に感動する
■短期間の滞在でも、地域独自の暮らし方・食べ物の創意工夫が大切な要素となる

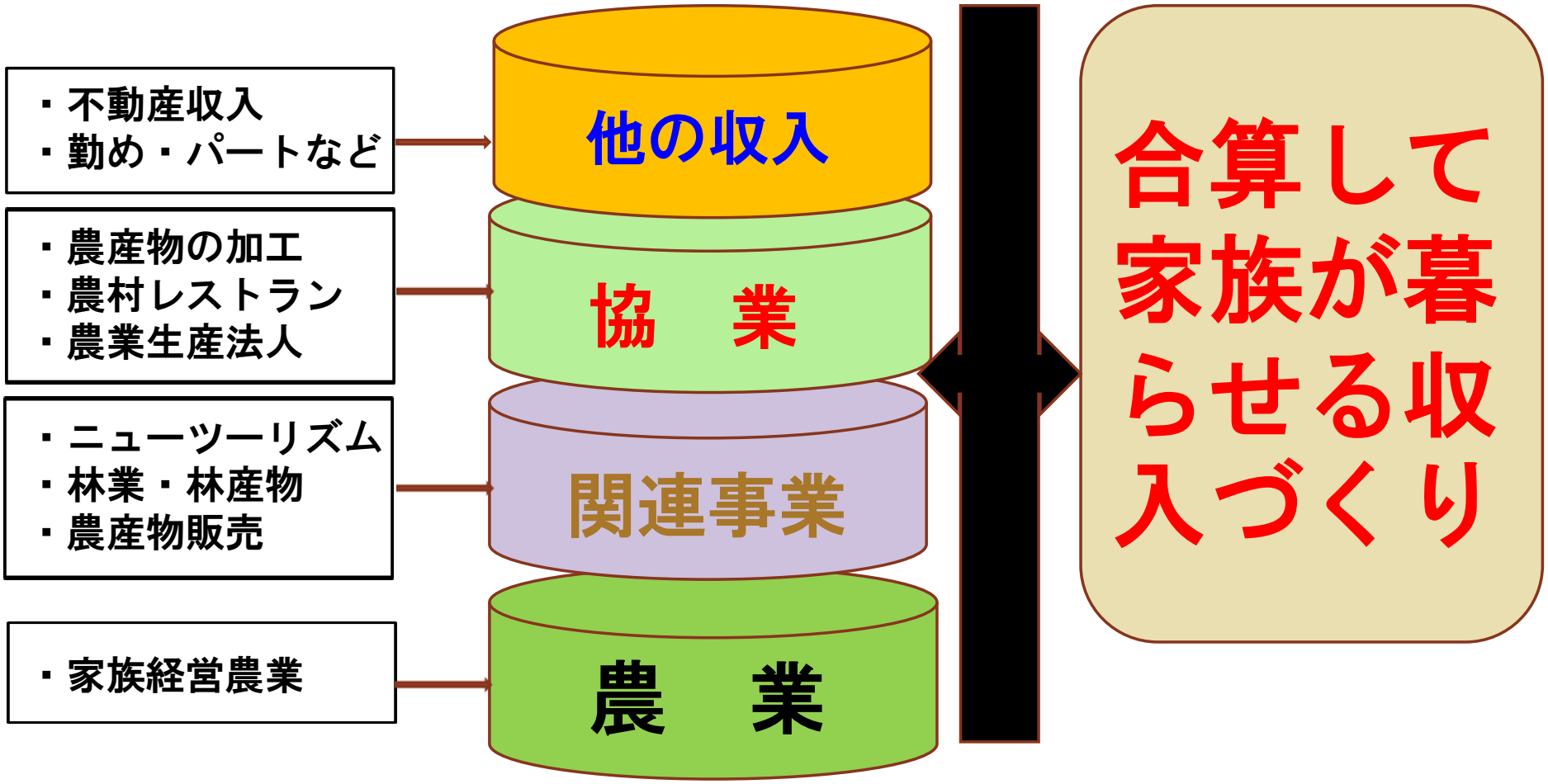
価値創造は地域の総合力

働く場を確保し豊かな生活を堅持するにはどうするか
工業から農業へ、人の流れの兆しがある。高齢化した農業を活性化させる
マーケテイングやデザイン、今までの農業にないノウハウや人材が集まれば、
新しいアイデアが生まれ、活性化する解くカギは農業や観光にある。
「雇用を生む農業」「雇用を生む観光」へと大転換が求められている。



農業経営の方角化・マンション経営方式

一家の人数、食の変化など暮らしの単位が変わった。
ならば農家も同じように変化しないといけない



ツーリズムで食の魅力を発信

食に係る素材を発見・発掘する

・地域が有する食に係るリスト化・データベース化する
・地域の食に関する情報ネットワークを整備する・・・

活用する食材を選択する

・地域・旬・量が限定の食材を活用する・・・・・・・
・地域のキャッチイメージとなる素材を活用する・・・

「食べる」魅力を高める

・地域独自の調理方法や地域らしさを感じさせる提供方法を工夫する
・観光地での食の選択を広げる取り組みを進める・・・・・

「買う」魅力を高める

・食に関する消費形態にバリエーションを持たせる・・・・
・素材は一つでも加工で工夫できる・・・・・・・・・・・
・販売方法を工夫する(ストーリー化など)・・・・・・・・

「食を体験する」魅力をつくる

・農林漁業のリアルな(ほんもの)体験を提供する・・・・・
・食べ方・文化など付加的な体験を提供する・・・・・・・

多様性を考える

- 女性や外国人など多様な人財は、多様な価値観、発想法を持っていて、それぞれが持つ人的ネットワークも多様（21世紀財団　会長　岩田喜美枝）
- すべての基本は『天』。『天』が大切にされ、主役となる社会を目指す（横浜市長　林　文子）
- 人間は視覚から90％の情報を得て、行動している。しかし、外見で全てが判断できるだろうか。人であれば、性別・国籍・身体的な特徴、地域であれば、財政、建物やまちの整備状況、店の数、交通、人口量・・・
- 互いの個性を知り、尊重し合い、共創をしていくことが、これからの社会において重要な事ではないか

人間会議2015夏号から

人材輩出

津軽半島農林漁大学

・津軽半島の豊かな農林漁業体験の推進(農林漁業体験200プラン)
・津軽半島地域のグリーンツーリズムの推進(農・漁業民宿50軒)
・定住・移住の地津軽半島の推進 (目標2軒)
・半島の豊かな「食」の提供(おもてなし) おもてなし料理20件

津軽半島マイスターづくり ← やる気のある一般半島人(10人)

★グリーンツーリズムインストラクター資格取得
★自然体験活動推進協議会インストラクター資格の取得

津軽半島かたりべ発掘事業 ← 太宰　治・菅江真澄・吉田松陰等、津軽を語れる人財の育成(5人)

食育推進事業 ← ベジタリアン・健康料理・薬膳料理・加工品の開発人財育成(10人)

ネライ: 津軽半島が自立した津軽州として、交流人口を受け入れる為の人財を育成する事業　実施期間2年

↓

人材輩出

津軽半島環境研究センターについて

全国の大学との連携で、できれば半島の持っている山・川・海という里山・里海を利用した半島の自然を五感で、感じて、感性を磨く実習授業を展開していければと考える。できれば単位を取得するコースができればとてもよい。

半島の自然は、本物の自然に触れる場であり、日本の原風景にふれる場でもある。

津軽半島環境大学

大学生
一般オープンカレッジ

半島の中にある体験型プログラム(実習)コース　半島の授業

①環境
②農・漁業
③林業
④食

→

①森林体験コース(林業・エネルギー体験)
②農・漁業体験コース(水稲・果実・畜産体験)
③里山・里海の体験コース(山・川・海の里の文化探検)
④景観体験コース(草花・植物・歴史を学ぶ)

ネライ: 大学が必要としている実習・講義を行い、修了者は、半島体験型プログラムの具体的な受け入れ(案)をレポートとして提出する事とする。その際に、その実習が自然環境と産業の共存も提案したものがあると望ましいと考える。

ワイド東北

青森地域社会研 給与所得者に意識調査

女性の活躍支援「進まず」7割

地域社会の発展に女性の力が必要なのに、地域や職場でそれを支援する取り組みは進んでいない―。青森銀行のシンクタンク青森地域社会研究所が行った意識調査で、こんな実態が顕著に表れた。職場で女性が活躍するために重要な要素として、男性は「女性自身のスキルアップ」を、女性は「働くための環境」を重視する傾向がみられた。

男性「スキルアップ」女性「働く環境」重視

職場実態 期待に追い付かず

女性の活躍の重要性を認める割合は81・6%。男女別では女性（83・1%）が男性（79・5%）を上回ったが、「大変重要だ」との答えはむしろ、女性（13・1%）より男性（22・8%）の方が多かった。

地域社会で女性の活躍を支援する取り組みは、72・7%が「進んでいない」と答え、「進んでいる」は17・1%だった。職場での取り組みについては、差がやや縮まるものの52・1%が「進んでいない」と回答した。

こうした事情が昇進意欲に影響しているのか、「昇進を望まない」と回答した割合は、男性が52・3%だったのに対し、女性は30ポイント以上高い82・5%に上った。

女性が職場で活躍するために何が必要かを複数回答で聞いたところ、「産休・育休が取りやすい環境」「上司の意識」「保育施設の充実」の回答割合は女性が男性を上回った。「仕事への適正な評価や処遇」「女性の意識や姿勢」「女性の能力や経験」は男性の方が多かった。

青森地域社会研究所は「女性の活躍に対する関心や期待と、実態との間に大きなギャップがある。職場にサポート制度はあるものの、追い付いていない運用面をどうしていくのかも課題だ」と総括している。

調査は5月中下旬、県内の給与所得者を対象に実施し、925人（男性381人、女性544人）から回答を得た。

100人食べ100人うまいと言った伝説の菓子
岩井洋菓子店
仙台駅2Fで9/21(祝)まで販売中
北山本店 ☎022-272-7122 柏木店 ☎022-233-8005

ハイデルベルグ

「食」を活用し観光と連携したグリーン・ツーリズム

首都圏シェフの食探し体験ツアー

首都圏のレストランを中心としたオーナーやシェフの方々に、津軽平野全体の生産者を歩いて頂いて、生産物を味わっていただいたり、食材としての利用をセールスする。

産地で直接味わっていただき、メニュー等も考えて頂く
又、必要な商材をシェフに提案頂き、提供可能な生産地をさらに紹介する

取扱いレストランやメニュー、シェフをホームページやSNSで紹介

新メニューを取り入れてもらったりする事で、食材として、青森県産品を広く利用していただく

津軽の食の伝道師の食旅ツアー

首都圏の消費者を対象で「津軽の食の伝道師の食旅ツアー」を実施
農家予備軍の定住や移住と、首都圏との情報提供で、野菜等の出荷量を増やす

情報提供

首都圏の消費者の様々ニーズ

食べたい
体験したい
参加したい
（自分で生産したい）
住みたい

アンケートや、都市ニーズに対する意見を頂いて、都市のニーズにあった産品を自発的に次々と開発し、結果的に多品目を生産する

漬物や加工品など地域の多様性や可能性を活かし、市場に表現するというニューコモンズ・ニュービジネスモデルに移行する流れをつくる

綾小路君麿風　社会の動き

1975年　国際婦人年
1979年　国連総会で女子差別撤廃条約が採択
1985年　男女機会均等法制定(翌年から施行)・・・・・『あれから30年』

女性の社会進出のポイント
・ひとつは、子育てや親の介護といった家族生活を営みながら仕事が続けられるか
・もう一つは、女性が男性と同様にキャリアアップし、女性の中から管理職や役員が誕生すること(あまり進んでいない。現在比率は、1割程度)

★私もそうでしたが、夫一人の給与で、家族を支えてきた。つまり家事や育児を妻に任せて、何時間も働けることができた時代。**今も、そのような常識が続いている。**
労働力の人口が減少している。
・良質な若い人口を手にいれなければ、企業の持続的発展ができない。
・女性の顧客のニーズに着目した商品やサービスが必要な時代

9.5%

何の数字

1時間7分

9.9%

78.8%

答え

・9.5%とは、日本の国会議員が占める女性の割合　　世界的には日本は153位
・1時間7分とは、6歳未満の児童を持つ、子どもの男性の家事・育児時間は、1日当たり1時間7分『総務省社会生活基本調査』より
・男性の休日における、家事・育児が零の家庭において、第2子以降の出生率は9.9%　厚生労働省『第9回21世紀成年者縦断調査』より
・78.8%とは、女性の約8割は、今後働きたいという以降がある。仕事をしていないそうでも7割が仕事の再開の意志がある。『電通総研女性×働く調査』